

宝塚市で子どもたちに自然や生き物のおもしろさを伝える ～しぜんクラブの活動 2016～

小野恒義・大倉保子・伊藤則幸・山村 穰・坪井 勲 (フレミラ しぜんクラブ)、
小島華子 (フレミラ宝塚)

はじめに

私たち“フレミラ しぜんクラブ”は、フレミラ宝塚で開講している高齢者大学“いきいき学舎・フレミラ”「環境・自然コース」の卒業生と在校生の任意のグループです。フレミラ宝塚は、宝塚市立の『老人福祉センター』と『大型児童センター』の複合施設です。高齢者と児童が、ふれ合い、未来を築く場所として、相互に交流を深めることを目的に様々な事業が行われています。「環境・自然コース」では、私たちの身近な動植物や環境の変化、生物多様性などについて学びます。そこで学び体験したことを活かして、地域の子どもたちに何か発信したいという思いから、しぜんクラブを立ち上げました。しぜんクラブの目的は、地域の子ども達と一緒に自然を学び、楽しむことです。昆虫や植物など「生き物」に直接触れることで、教科書では学べない自然の不思議や面白さを子ども達に伝えていきたいと思えます。

1年間の活動紹介

<春>

■しぜんとあそぼう 春の山野草さがしとヨモギだんごクッキング

(小学生20名とスタッフ14名が参加)

教室で山野草の種類や形状・生態について学んでから、外に出て実際に春の山野草の観察をしました。宝塚で採集したヨモギを使って団子を作り、香りや味を感じながら試食することで、雑草とよばれる身近な植物にも食べられるものがあることを知ってもらいました。

<夏>

■しぜんとあそぼう 虫と葉っぱのワクワク大発見！

(小学生100名とスタッフ20名が参加)

フレミラ宝塚の屋内運動場で行う毎年恒例のイベントです。「マツボックリのけん玉づくり」、「うんちムシをつくろう」や、「虫の捕り方教室」、「蚊帳遊び」、「みんなの打ち上げ花火」、「大きなシャボン玉であそぼう」を実施しました。「虫の捕り方教室」では虫捕り網の使い方から虫の触り方・育て方まで教えます。大きな蚊帳の中に昆虫を入れ、その中に入って直接虫に触ってもらう「蚊帳遊び」もとても人気があります。うんちムシってどんな虫？先生から糞虫(センチュウガネ)のお話を聞いたあとは、自分だけのオリジナルうんちムシを作ったり、折り紙を画用紙いっぱい描いた「みんなの打ち上げ花火」もとてもきれいでした。

<参加してくれた子どもたちの声(当日のアンケートから)>

★たのしかったこと・ふしぎとおもったこと

- ☆セミが3匹もとれてとってもうれしかったです。
- ☆初めてムシとりしたこと。
- ☆うんち虫がうんちに家をつくったこと。
- ☆セミは何年間土の中にいるの？
- ☆どうして虫は同じ作りをしていて、人はちがう形なのかな？
- ☆大きなシャボン玉作りとひつつきむしダーツがむずかしかった。けどおもしろかった。
- ☆葉っぱの着せ替えカードが楽しかった。みんなにかわいいといってもらえてうれしかった。
- ☆たのしかったよ。いろいろなことをおしえてもらいました。

■ダリアの花びら染め ～西谷のダリアの花びらを使ってハンカチを染めよう♪～

(小学生20名とスタッフ6名が参加)

「ダリアを楽しむ会」の岡田さんと戸田さんからダリアの原産地や種類などの話を聞いたあとに、ダリアの花びらを絞った染色液でハンカチを染めました。ワゴムで柄を作ったり、媒染液で色の違いを楽しみました。

<秋>

■わっしょいフレミラ秋まつり

(来館者が自由参加、スタッフ20名が参加)

フレミラ宝塚全体のおまつりに、フレミラしぜんクラブとして出店しました。ドングリにフェルトで作った帽子をかぶせた「ストラップづくり」、木の実や枝を使った「自由工作コーナー」、紙皿に毛糸や木の実を飾り付けた「リースづくり」は女の子に大人気でした。「ひつつきむし ダーツ」はパネルも秋仕様に模様替え、「かや遊び」は小さい子ども達がチョウやバッタに夢中になっていたのが印象的でした。

<冬>

■ひとはく Kids キャラバン

ひとはくが行っている宝塚市内の児童館向けのプログラムにスタッフとして参加しました。今年は安倉児童館の子どもたちと「春の山野草とヨモギだんごクッキング」。いつもと違う会場でもスムーズにおだんご作りが出来るようスタッフで工夫しながら行いました。

まとめ

ペンネームに“虫”という字を入れるほどの昆虫好きだった手塚治虫が幼少時代を過ごした町、宝塚から、「未来の昆虫・植物博士を育てよう～学ぶそして繋ぐ次世代の子どもたちへ～」をテーマに、これからも楽しんで活動していきたいと思います。